

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

感謝

校長 丹羽正昇

やわらかい春の日ざしに包まれた3月19日。東汲沢小学校の第46回卒業証書授与式が、執り行われました。卒業生82名、ひとり一人の顔は、喜びと自信に満ちていました。今年も、ご家庭から一名ずつと来賓三名の方にもご臨席賜り、卒業式に光彩を添えていただきました。職員だけでなく、保護者や来賓の皆様と一緒に卒業をお祝いできたことに、いま感謝と安堵の気持ちを得ております。心残りなのは、在校生の見送りを実現できなかったことです。誰にとっても、さぞ心残りのことだったと思いますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から判断いたしました。在校生とその保護者の皆様には、ご理解とご協力を頂戴し感謝しております。

さて、卒業生へのはなむけの言葉の一部をここで披露したいと思います。それは、この一年間、ひぐみを支えてくださった保護者や地域の皆様への感謝の気持ちを表すことにも通ずると思うからです。

私は、「三つの学び」と題してはなむけの言葉を贈りました。その二つめの学びとして、「ドキドキすることとハラハラすることとは違うことだ」という高畑勲さんの言葉を紹介しました。高畑勲さんは、宮崎駿さんとスタジオジブリを立ち上げたアニメーション映画の制作者であり、6年生の国語科の教科書にも文章が載っている、卒業生にはなじみのある方です。その高畑さんがいう「ドキドキとハラハラの違い」とは、どのようなことなのでしょう。

ドキドキさせる場面。例えば、映画の主人公がいきなり落とし穴に落ちたとすると、びっくりしてドキドキしますね。逆に、何だか分からないけど穴に落ちることを避けられたとしても、何かドキドキしますね。ドキドキしたという体験は、面白いかもしれないけど、感想としてはそれだけで終わってしまう。

一方で、ハラハラする場面。例えば、ある映画の場面、観客には落とし穴があるのが分かっている、主人公には分かっていないとします。そこに主人公が進んでいってしまう。皆さん、その場面をどうぞご覧になられていますか。「そのままいたら穴に落ちてしまう。」「気を付けてー。危ない!」など、主人公を心配しながら思っているのではないのでしょうか。また、見ている人の思いが伝わって、主人公が穴に落ちなかったらどうでしょうか。「あーよかった。安心したよ。」と思うのではないのでしょうか。ハラハラするというのは、相手を思っている状態だと高畑さんは言います。だから、ドキドキすることに比べて、ハラハラすることのほうが、感情が豊かに表現でき、相手に思いを寄せている気持ちが伝わりやすくなる。高畑さんのメッセージは、人に寄り添うことの本質を教えています。

この一年間、皆様には、子どもの様子や学校の状況を、ドキドキではなくハラハラしながらみていただいたと感謝しております。ときには、一言(いやそれ以上に)いいくなることもあったと思います。それでも、子どもを信じ、学校を信じてくださったことで、なんとか令和2年度を終えることができそうです。

来年度も、ハラハラさせる場面がたくさんあるかと存じます。そんなときには、高畑さんの言葉を合言葉として、一緒にひぐみっ子の成長を支え、ひぐみの教育を前に進めていただければ幸いです。

「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」を、令和3年度もよろしくお願ひ申し上げます。